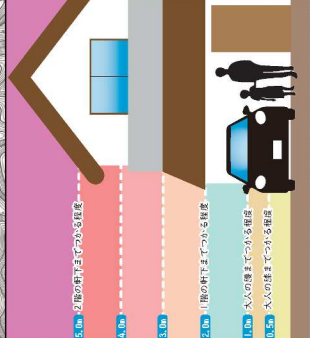


# 口内大堤ハザードマップ

凡例	
浸水深 5.0 m 以上	到達予想時間(分)
4.0 ~ 5.0 m	要注意箇所
3.0 ~ 4.0 m	市町村界
2.0 ~ 3.0 m	
1.0 ~ 2.0 m	
0.5 ~ 1.0 m	
0.5 m 未満	

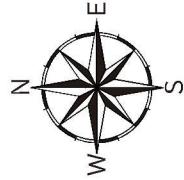
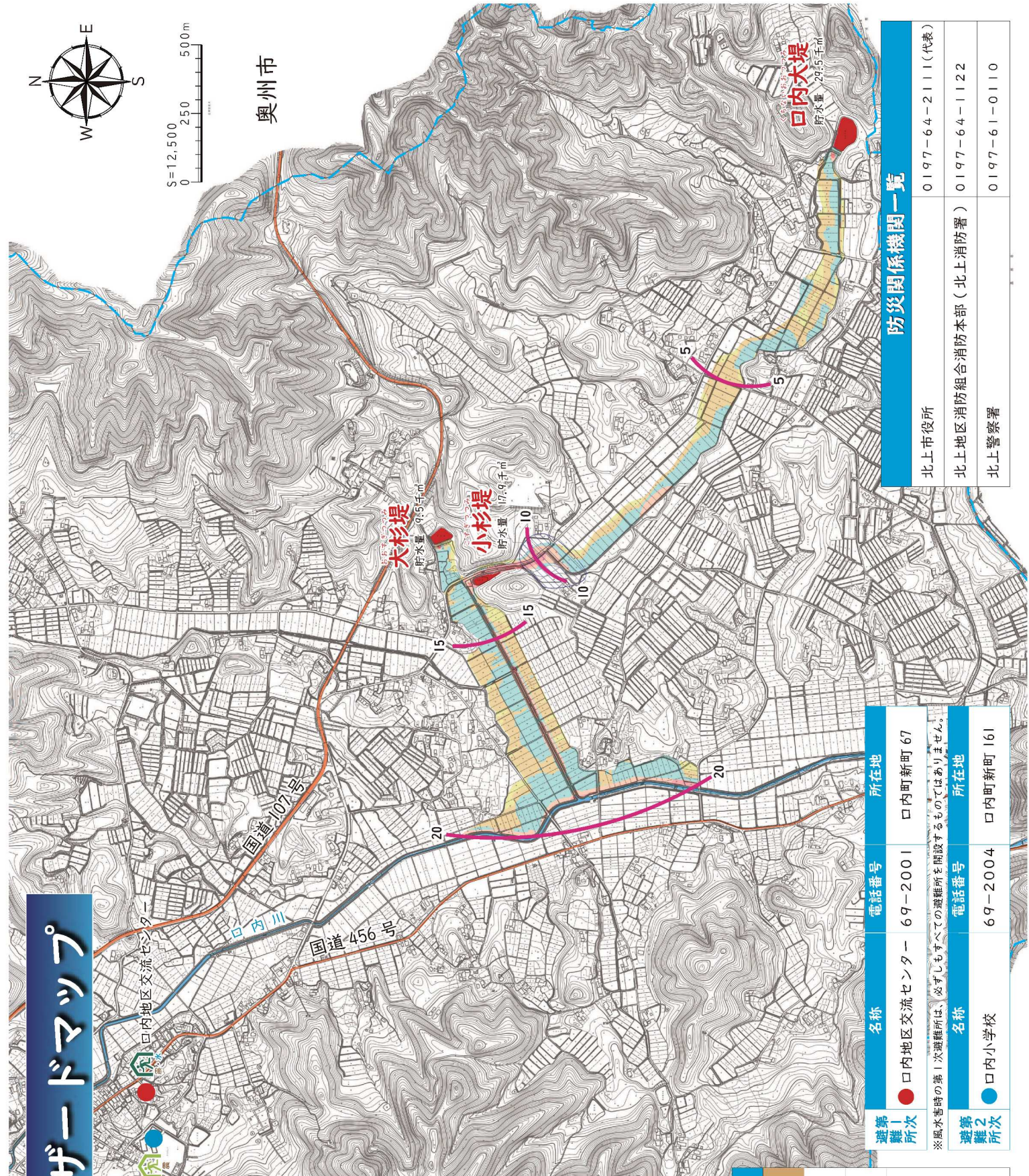


## 避難施設 凡例

避難施設	地震のみ	地震・風水害
第1次避難所	内	内
第2次避難所	内	内

**第1次避難所**  
災害発生時に市が最初に開設する避難所  
避難者が多数となり、第1次避難所では収容しきれなくなった際に追加で開設する避難所

**第2次避難所**  
災害発生時に、必ずしもすべての避難所を開設するものではありません。



奥州市

避難所	名称	電話番号	所在地
第1次避難所	口内地区交流センター	69-2001	口内町新町 67
第2次避難所	口内小学校	69-2004	口内町新町 161

防災関係機関一覧	
北上市役所	0197-64-2111(代表)
北上地区消防組合消防本部(北上消防署)	0197-64-1122
北上警察署	0197-61-0110

# 口内大堤 ハザードマップ

## ◆ため池ハザードマップとは

近年、局地的な大雨や大規模な地震の発生などにより、ため池の被害が各地で発生しています。このため、ため池が決壊する恐れのある場合、または決壊した場合に迅速かつ安全に避難するための参考資料としてため池ハザードマップを作成しました。

ため池ハザードマップは、ため池の決壊による氾濫水による到達時間と浸水想定区域を示したものです。

**※浸水想定区域以外の安全を保障するものではありません。**  
災害時は周囲の状況を注意深く見守り行動することが大切です。

## ◆ため池ハザードマップのシミュレーション条件

- 「ため池ハザードマップ」は、以下の条件によりシミュレーションしています。
- ため池が満水の状態で、地震または大雨により瞬時（一気）に決壊する。
- ため池の周辺に大雨が降り、河川・水路等の水位が上昇している。

## ◆ため池ハザードマップの使い方

ステップ

### 1 自宅の位置を確認

自宅がある場所や周辺が、浸水想定区域に含まれるか確認しましょう。

ステップ

### 2 付近の避難所を確認

自宅に一番近い避難所を確認しておきましょう。

ステップ

### 3 避難経路の確認

避難所までの経路を決めましょう。浸水想定区域を避け、複数の避難経路を設定することが重要です。

ステップ

### 4 避難経路を歩いてみる

あらかじめ決めておいた避難経路が、安全に通行できるかを実際に歩いて確認しましょう。

## ■ほか災害について

※ため池の決壊以外の災害については「北上市洪水・土砂災害ハザードマップ」、または「北上市わか町ガイド」を参照して下さい。

北上市洪水・土砂災害ハザードマップ

[https://www.city.kitakami.iwate.jp/life/kurashi\\_tetsuduki/shobo\\_bosai\\_anzonanshin/bosai/hazardmap/](https://www.city.kitakami.iwate.jp/life/kurashi_tetsuduki/shobo_bosai_anzonanshin/bosai/hazardmap/)

北上市わか町ガイド

スマートフォンアプリはこちら



<https://www2.nagmap.jp/kitakami/>

※QRコードはスマートフォンから読み取れます。

# 避難時の心得

## ●正確な情報収集と自主避難

ラジオ・テレビで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。また、テレビのデータ放送も活用しましょう。

## ●避難前の安全確認

避難する前に、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉め、避難先を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。

## ●お年寄りなどの避難に協力

お年寄りや子ども、病気の人は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子ども、病気の人などの避難に協力しましょう。

## ●水面下の危険に注意

浸水した場所では、側溝やマンホールのふたがはずれている危険があります。長い棒を杖代わりにして、安全を確認しながら歩きましょう。

## ●逃げ遅れたら高い建物に避難

万一、逃げ遅れたら避難所まで行く余裕が無い場合は、近くの丈夫な建物の三階以上に避難して救助を待ちましょう。建物の二階部分でも場所によっては危険な場合があります。

## 避難時の情報や心得をよく読み、いざという時に

## 安全かつ速やかな避難行動に結び付けましょう

## ●避難の呼びかけに注意

市や消防団等から呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。

## ●速やかに避難

避難指示は、危険が迫ったときに出されますので、速やかに避難しましょう。避難の際には消防・警察などの指示に従いましょう。

## ●動きやすい服装、2人以上での避難

避難するときは、できるだけ2人以上での行動を心がけましょう。ご近所にも声をかけ協力して避難しましょう。運動靴を履き、動きやすい服装にしましょう。サンダルは禁物です。

## ●歩ける水の深さに注意

大人が歩ける深さは、約50cmが目安です。水の流れが早いときは、50cm以下でも歩行は危険です。水深が腰までであるようなら高いところで救助を待ちましょう。

## ●車での避難はしない

冠水した道路では車が水に浸かり、動かなくなることがありますので、車での移動は大変危険です。また、道路をふさいで救命活動や水防活動の妨げになることがありますので、車での避難はやめましょう。